

YUNOKA BRIDGE

芦北町湯浦地区は

古くは海から船で訪れる天草の人達で栄えた
温泉町である。

その町のシンボルとなっていた

朱色に塗られた木造の太鼓橋が老朽化したため、
新しく掛け替えようという計画であった。

それは、交通システムの変化によって

人の流れの変わってしまった温泉町に、再び
人のにぎわいを取り戻そうという

長期計画の第一歩でもある。

Kumamoto Artpolis

K・A・P

くまもとアートポリス

熊本県

くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築課 〒862 熊本市水前寺6-10-1
☎096・383・1111 (6220・6221)

近代以降の橋は

自動車や車を渡すといった機能性や、
早く、そして安くという

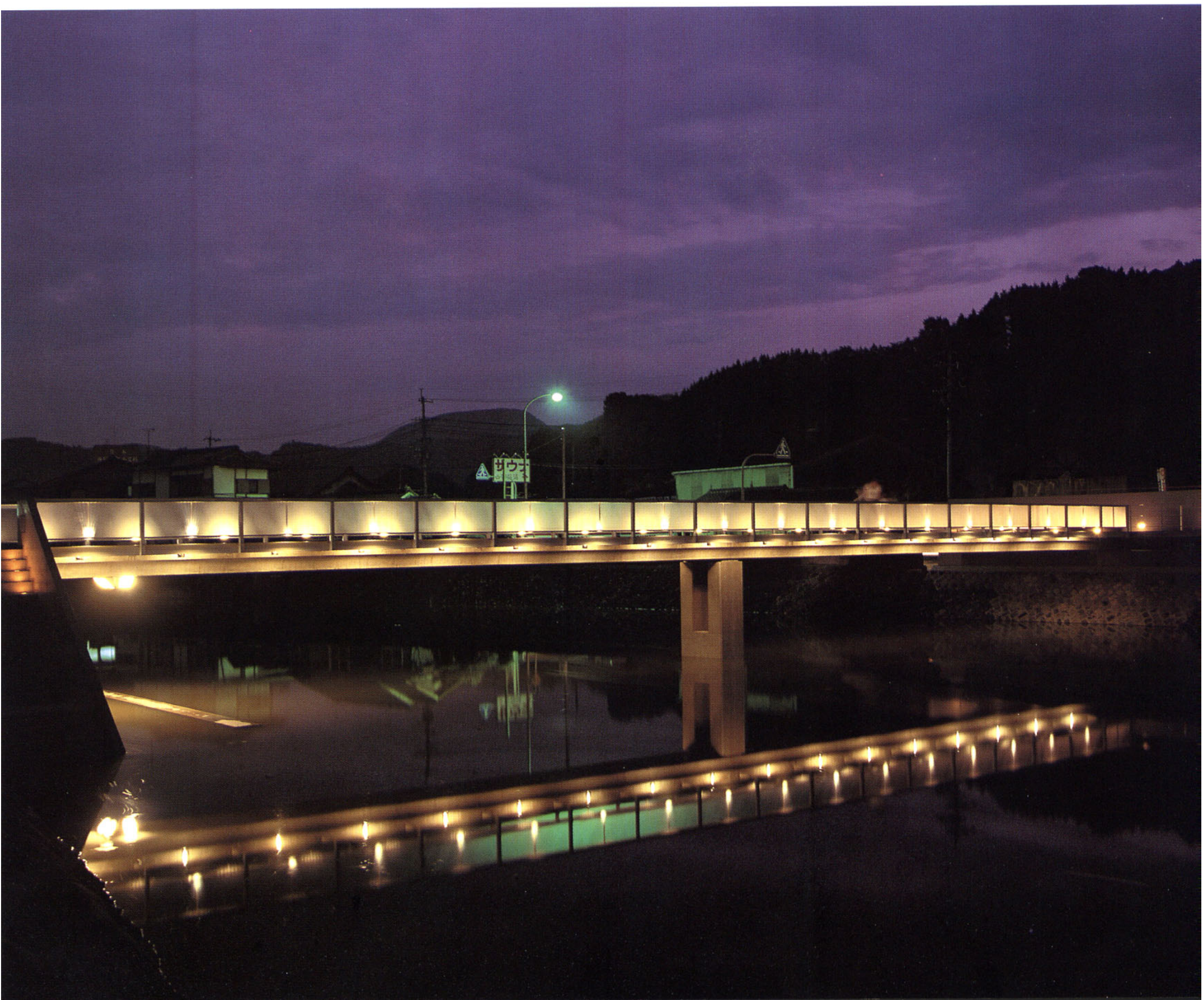
経済合理性のみを主眼として作られ続けてきた。

しかし、ここではそれとは全く逆の、

歩いて渡ることが純粋に楽しみであるような、

そんな橋が

求められ、つくられた。





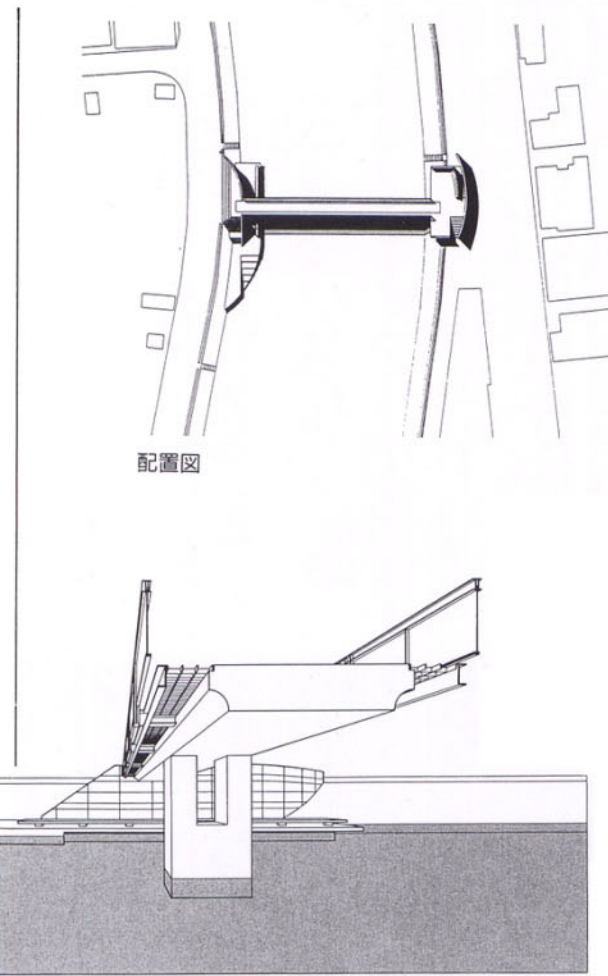
● 建築概要

湯の香橋の設計の主眼は、新しい物語を生まだすような橋をつくることであり、次の4つのポイントに留意しながら設計が進められた。

ひとつは水面まで降りていくことができ、水を身近に感じることができるようなテラスを設けること。2番目に手摺をフロスト・ガラスとし、太陽の光の変化や橋を渡る人のシルエットをさながら障子越しに見るように演出する。3番目には、橋のデザインとして照明効果を最初から考慮すること。橋の床版の端部に照明を組み込み、グレーチングの床、フロフト・ガラスの手摺、そして橋の下の水面に光が廻るように計画し、夕暮れの散歩を楽しめるものとする。

● 建築データ

名称／湯の香橋
 所在地／芦北郡芦北町湯浦
 主要用途／遊歩橋
 事業主体／芦北町
 設計者／岸 和郎
 施工者 建築／日本ビー・エス・コンクリート
 電気／平田電気
 橋長／40.8m
 幅員／3.34m
 構造／プレストレストコンクリート
 仕上 手すり／ポリカーボネート樹脂板フロスト加工
 床／RC洗い出し、両側部はグレーチング
 施工期間／1990年12月－1991年3月
 総工事費／91百万円



● 建築家プロフィール

岸 和郎 (かしわろう)

- 1950年 神奈川県生まれ
- 1975年 京都大学工学部建築学科卒業
- 1978年 京都大学大学院工学研究科修了
黒川雅之建築設計事務所入所
- 1981年 岸和郎建築設計事務所設立
京都芸術短期大学造形学科専任講師
- 1990年 同助教授

● 主な作品

- KIM HOUSE、洛北の家、
AUTO LAB、都築Flat、
京都科学・開発センター など
- 1983年 商空間デザイン賞優秀賞

